授業科目：	統合実習		
科目区分：	看護学科専門科目	**受講者数：**	60 名
担当者：	岡田 麻里，井上 誠，伊藤 良子，木村 幸生，片山 友里，近藤 美也子， 土路 生明美，船橋 眞子，安田 千香（保健福祉学部看護学科）		
アクティブ・ラーニングのタイプ：	**行動型 ・ 参加型 ・ 複合型**（※行動型・参加型 AL を組み合わせて実施）		
キーワード（具体的なＡＬ手法等）： 事前学習（個人学習），グループワーク，ロールプレイ，臨地実習（インタビュー・シャドウイング，ラベルワーク（振り返り），プレゼンテーション），ワールドカフェ，学修支援アドバイザー			

１．授業の概要と目標

既修の知識と技術及び態度を統合し，専門的な看護実践をするために，医療チームの実践のなかで，多様な状況を判断し，対応するための思考プロセスを学ぶ。

１．医療チームにおける看護師の役割と実践を理解する
２．複数の業務と受け持ち患者の看護において，看護師が直面する多重課題に対応できる看護実践能力を理解する
３．医療チームの一員として，効果的なコミュニケーションを図ることができる
４．病院組織における看護管理の実際を理解する
５．医療チームの一員として自覚を高め，自己の課題を明らかにすることができる

２．アクティブ・ラーニング導入の具体的な流れ

〇科目名：統合実習（多重課題演習・シャドウイング実習）　３年次生　後期　２単位 60 時間

段階	指導過程･学修活動	指導上の留意点（工夫）	評価方法
１か月前	【事前学習（個人学習）】 ･統合実習（多重課題演習･シャドウイング実習）オリエンテーション ･実習要綱および事前課題の配布	演習および実習に臨むための知識と技術の整理 1)医療安全管理に関する用語をまとめる 2)実習先病院･病棟の概要･入院患者の特徴をまとめる 3)多重課題演習に必要な知識と技術をまとめる	実習１日目にレポートを担当教員へ提出 作成したレポートを基に演習に臨む
１日目	多重課題の事例展開：先輩看護師のサポートを得て，４ 人部屋の患者を新人看護師の立場で男性患者を受け持つペーパーシュミレーション 【グループ･ディスカッション】 場面1：申し送りを受けた後の検温 場面2：患者の清拭中に，別の患者の検査終了のお迎えに呼ばれる 【ロールプレイ】 場面3：部屋をかえて欲しいという患者への対応 場面4：糖尿病の高齢夫婦への食事指導中に点滴漏れのナースコールへの対応 【ラベルワーク】 【プレゼンテーション】	･チームナーシングにおけるメンバー看護師の立場で，受け持ち患者をアセスメントし看護ケアの優先度を判断するための思考過程を踏めるように促す ･チームで多重課題に対応するための看護実践能力とは何かを考え，演習で得た分からないことや看護師に質問したいこと，シャドウイング実習での観察ポイントを意識化し，まとめるように促す ･各グループに学修支援アドバイザー（４年次生）を配置し，ファシリテーションの助言･自分の実習経験を語る等の役割を担ってもらう	グループワークやディスカッションへの積極的な参加と態度 他の学生の意見を聞く姿勢 実習に向けた準備性

2～4 日目 臨地実習	1 日目のみ 【看護部長の病院紹介および新人教育に関する講話（40 分程度）】 【病棟師長の病棟オリエンテーション】 1～3 日目 【師長・リーダー・受け持ち看護師へのシャドウイング実習（グループでローテーション）】 【朝・夕の申し送りへの参加】 3 日目のみ 【ラベルワークによる振り返り】 【ナースステーションでの学びのプレゼンテーション】	・シャドウイング中は，学生は担当看護師に積極的に自ら関係性を築けるように質問し，看護ケアを補助するよう促す ・シャドウイング中も患者や家族への配慮を忘れないように促す ・シャドウイング終了後，担当教員へ報告，振り返りを行う	教員との振り返り 実習記録 カンファレンスへの参加 プレゼンテーション
まとめ	【グループワーク】 ・演習・実習を通し「多重課題に対応する看護実践能力と自己の課題（サブテーマ）」を決める ・グループでラベルワークを活用し，学びの内容を振り返り話し合う 【ワールドカフェ形式】		ワールドカフェ形式グループワークへの参加 まとめの記録

３. 成果・効果

1～3 年次で学修した内容を振り返り，既修の知識や看護技術を実践現場で活用するために統合し，自分の課題を見つめる機会となっている。多重課題は，日々の学生生活でも生じており，限られた時間のなかで優先順位を判断し，倫理的側面からも考え行動することを学んでいる。

シャドウイング実習で看護師の一日の動き方や思考過程の学びを通して，病棟看護師の忙しさの意味の理解につながっている。そのため，受け持ち患者に関する連絡・報告・相談のタイミングを計り，方法を考えられるなど，実践的なコミュニケーション技術の修得つながっている。

学修支援アドバイザーとしてかかわる 4 年次生にとっては，1 年前の自分を振り返り自らの成長を感じる機会となっている。3 年次生への助言，ファシリテーション，自分の経験を伝えることを通して，“教える”ことを学ぶ機会となっている。

４. 課題

実習指導者から，個人差は大きいが，シャドウイング中の学生の自発性や積極性が低いという指摘がある。前日の多重課題演習を通して自己の課題の意識化，実習への心構えと自覚，具体的なイメージをもたせる。他大学と異なる本学独自の統合実習の目的を実習現場と共有し，シャドウイングを通じた学生指導のあり方を検討する必要がある。

５. 資料

１）岡田麻里，今井多樹子，井上誠，近藤美也子，土路生明美，船橋眞子，永井庸央，松森直美（2017）:既修の知識と技術を統合する多重課題演習とシャドウイング実習から得られた 3 年次看護学生の学び，日本看護科学会誌，37：446-455.

２）今井多樹子，岡田麻里，永井庸央，船橋 眞子，井上 誠，近藤 美也子，木村 幸生，土路生明美，松森 直美（2017）：学年進行と共に段階的に進める「看護の統合と実践」における教育に関する研究―各論実習前に実施した統合実習の教育的有用性と課題の検討―，人間と科学，県立広島大学保健福祉学部誌，17(1)，28-39.

３）岡田麻里，今井多樹子，近藤美也子，井上誠，木村幸生，宮本奈美子，土路生明美，船橋眞子，滝口里美，松森直美（2016）:各論実習を修了した 4 年次生の多重課題演習における学び，県立広島大学総合教育センター紀要，1,61-68.

４）岡田麻里，今井多樹子，井上誠，近藤美也子，土路生明美，船橋眞子，永井庸央（2016）：多重課題を中心とした統合実習の効果と課題―チームナーシングを実践するための思考を育てる多重課題演習と車道院議実習，看護人材育成：日総研出版，13(3),54-64.